藩祖 酒井 忠勝 ②

酒井家、松代から庄内へ入部

酒井家（左衛門尉）は古くから松平（徳川）家に仕え、初代酒井忠次は徳川家康の重臣として活躍しました。2代家次の時代には、下総国臼井、上野国高崎、越後国高田へと転封を繰り返します。3代忠勝は元和5（1619）年に信濃国松代へ転封し、元和8（1622）年に出羽国庄内へ入部しました。

忠勝は文禄3（1594）年生まれ、慶長12（1607）年に2代将軍徳川秀忠の前で元服し、諱「忠」の一字を賜って忠勝と名乗り、宮内大輔と称します。慶長19（1614）年の大坂冬の陣、翌年の大坂夏の陣において父・家次とともに参戦し初陣を飾ります。元和4（1618）年、父・家次が亡くなると家督を継いで酒井家の当主となりました。

元和8（1622）年8月18日、出羽国の大名・最上義俊がお家騒動により改易になると、旧最上家領（57万石）は山形20万石を鳥居忠政に、上山4万石を松平重忠に、庄内13万8000石を酒井忠勝に、左沢1万2000石を酒井直次（忠勝の弟）に、白岩8000石を酒井忠重（同）に、真室6万8200石を戸沢政盛に分け与えられ、残りは幕府領となりました。酒井家全体としては合わせて約16万石を領することとなりました。

忠勝は山形城の支城ともみられる庄内への転封に不満を示したといいますが、幕閣からの軍事的重要性を強調され重責を感じ入部したといわれます。

また、入部する前に家臣・角田儀右衛門を密かに庄内へ派遣しました。角田は苦労の末に調書を書き上げ、庄内は「北には鳥海山が雲外に秀で、西を望めば蒼海限りなく、東・南には出羽三山の山々が連なり、〝天府の国〟である」と報告し、忠勝を安堵させています。

なお、「御世紀」や「酒井家世紀」といった諸史料によれば、忠勝の庄内入部は10月のこととされていますが、正確な日にちは分かっていません。**（致道博物館学芸部長・本間豊）**

鶴岡市指定文化財「琵琶 銘武蔵野」（江戸時代初期　荘内神社蔵）。**忠勝が弾いていたとされる琵琶。苦労の末、庄内の情報を得た角田儀右衛門に下賜した**

「藩祖・酒井忠勝肖像」（江戸時代）。**筆者・制作年代は不明**